（特非） 能登半島おらっちゃの里山里海

能登の“里海”文化の継承と保全

LOVE BLUE助成
3年目
実 践

「知る」活動	58人
「守る」活動	144人
今年度計画の達成度	50%
目標達成度	80%

里海ワークショップ（魚捌き教室）

苦労した点と工夫した点

■苦労した点
海に関する活動であることから夏場中心の活動となり、様々な地域行事と重複し、認知度が向上したにもかかわらず目標の参加者に達しなかったことや天候リスクに苦労した。

■工夫した点
3年目については、広く市内小学校一円に広報し、市内9校中5校での清掃・モニタリング活動が計画できた。全体を通して計画以上に多様なプログラムを実施できた。

課 題
里海に関する生活習慣や伝統的技術が人口減少や高齢化とともに失われつつある現状において、地域住民に里海をめぐる漂着ごみなどの現状や資源について認識を深めること。

目 標
里海に関する「現状」を地域住民が認識した上で、市民や関係団体が持続的に里海環境を保全し、持続的に活用していくことができる状況を目指すこと。

活動内容と成果
3年間を通じて、当活動の中心的な役割を担う「知る」活動の溶着ごみのモニタリング調査が3か年の事業継続により、事業周知や参加者が拡大してきたにもかかわらず、結果的には天候（台風の襲来）の影響から3回の中止を余儀なくされた。あらためて“里海”の活動の難しさを痛感した。
一方で、「守る」、「楽しむ」活動を含め3年間の継続実施ができたことで、関係機関との連絡も円滑になり、当NPOの運営ノウハウを蓄積することができたことから、予算規模の調整を行うことで持続的な活動の可能性が高まった。

アサギマダラ調査

おらっちゃの森づくり

全助成期間の活動を振り返って
全体的には、地域行事との調整や天候リスクが慢性的な課題として明確になった。とはいえ、参加者の表情は明るく、楽しそうで提供プログラムの適正を確認できた。
３年間の実施によって事務局のノウハウ蓄積と同時に、里海に関する事業の実施プログラムの可能性を感じた。
次年度以降は、より複合的な（知る＋楽しむ、など）活動と通年での活動を目指したい。

| 活動地域 | 石川県
〒927-1462 石川県珠洲市三崎町小泊33-7
電話：0768-88-2528
E-mail：satoyamasatoumi2006@gmail.com
http://www.satoyama-satoumi.com

今後の展望
天候リスクや地域行事との競合リスクを回避するためにも、まずは通年での活動を目指したい。複合的な活動（「知る」＋「楽しむ」、「里海」＋「里山」など）を安定的に実践することで、ツアー商品化の可能性が拡大し、より持続的な活動が可能となる。
そのためにも、観光系ＮＰＯなどとの連携が重要となることから、連携事業の実践にも今後取り組んでいき、結果として、里山里海文化が次代に伝承されていくことを目指したい。